

# 第4回DIAS 利用ワークショップ

## 触れてみようDIAS※1

DIAS は「ビッグデータが拓く持続可能で活力ある社会」の実現を支えるデータ基盤です。今回のワークショップでは、DIASの具体的なイメージをお持ちいただけるように、4会場に分かれて利用例の紹介や演習などを行い、どのようなDIASの使い方ができるか可能性を話し合ってください。

※1 DIAS : 文部科学省「地球環境情報統融合プログラム」によるデータ基盤「データ統合・解析システム」の略称。

日時：平成28年3月28日(月)10:00～12:00

場所：東京大学工学部1号館(教室は当日変更になる可能性があります)

事前の参加登録が必要です。http://www.dias.jp.net/ (現在準備中)より登録をお願いします

主催：海洋研究開発機構、東京大学、宇宙航空研究開発機構、国立環境研究所

プログラム

9:30～10:00 受付

10:00～12:00 次の4分科会に分かれて並行開催。うち、**※2を付した分科会では**、ご自身のパソコンをお持ちいただいて演習を行います。セキュリティ上の条件を満たしたパソコンのみとさせていただきます。詳細は参加申込みいただいた皆様にご連絡いたします。

(1) **メタデータ入力キャンプ※2** (京大・東大メタデータグループ(吉川)) : 13号教室

ご自身のパソコンを持込んで、データを検索し、そのデータの内容や使い方を理解するためメタデータを、DIAS を使って実際に入力してみましょう。定員：20名程度

詳細は 京大・東大メタデータグループ 中原(nakahara.yoko@i.kyoto-u.ac.jp) まで

(2) **生物多様性・生態系・都市環境の可視化** (GRENE-ei生態系・生物多様性、DIAS-P) : 17号教室

都市や海洋、そして日本広域における生態系や生物多様性を DIAS 格納データや省庁のデータなどを利用して見える化する手法と成果を紹介します。特に生態系と人との関わりや、生態系のもつ機能・サービスの可視化を扱います。定員：50名程度

(3) **農業ITの可能性と活用** (農業・食品産業技術研究機構木浦研究室、東京大学溝口研究室・二宮研究室) : セミナー室A (4階406)

DIAS に収量予測などのAPIを実装中です。今後実装される見込みのものや作物のモニタリング画像の切り出しシステムも含めてどのような使い方ができるか、どうすれば使い勝手がよくなるか、話し合しましょう。定員：20名程度

(4) **大気海洋データの可視化と活用※2** (京都大学学術情報メディアセンター小山田研究室(尾上)、海洋研究開発機構地球情報基盤センター(西川)) : 14号教室

ご自身のパソコンを持込んで、海洋3次元時系列データと漁獲量データを使った好適生息域推定モデルの構築を題材に、DIAS上の大気海洋データの可視化と活用方法の演習を行います。これは陸上の動植物の好適環境推定モデリング等、大規模大気海洋データと生態系データや社会データを組み合わせた様々な空間モデルの構築にも応用できます。定員：20名程度